

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

平川市長 長尾 忠行

| | | |
|-------------------|-----------------------------------|--|
| 市町村名 (市町村コード) | 平川市 (22101) | |
| 地域名 (地域内農業集落名) | 尾上② (高木、尾上、新屋町、南田) | |
| 協議の結果を取りまとめた年月日 | (第1回) 令和6年3月5日 (第2回) 令和6年7月30日 | |

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・高齢化が顕著であり、特にりんご農家は後継者不足に悩んでいる。
 ・高木生産組合員は60歳以上が組合員の大半を占める中、若手が新規加入しており将来的な農地の維持・拡大に支障はない。
 ・新屋町生産組合は高齢化、人員不足ともに課題であり、若手が増える見通しも立っていない。また、機械の更新費用を捻出するため、補助制度等の活用が必須である。
 ・儲かる農業モデルの提案により農業を安定した収入が得られる職として整備し、人材不足を解消することが求められる。

(2) 地域における農業の将来の在り方

農地を地域の担い手のみで維持することが困難であるため、他生産組合と連携または合併し働き手を確保する。農業機械は共同所有しシェアリングすることで投資資金を軽減させる。
 また、儲かる農業モデルとして、市やJAと連携した、高付加価値販売を目指す。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

| | |
|------------|--------|
| 区域内の農用地等面積 | 172 ha |
|------------|--------|

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

| |
|---|
| (1) 農用地の集積、集約化の方針 |
| 目標地図の実現を目指し計画的に農地集積を進めている地域の生産組織、大規模農家を中心となり集積・集約を図る。 |
| (2) 農地中間管理機構の活用方針 |
| 農業委員等を中心となり中間管理機構の活用を推進し農地の集積・集約を図る。 |
| (3) 基盤整備事業への取組方針 |
| 圃場の大区画化に向けた基盤整備の取り組みを検討する。 |
| (4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針 |
| 独立自営就農は一定のハードルがあるため、まずは農業に興味を持つ青年を雇用し、地域の担い手として育成する。 |
| (5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針 |
| |

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|-----------|--------------------------|-------------|--------------------------|---------|--------------------------|----------|--------------------------|------|
| <input type="checkbox"/> | ①鳥獣被害防止対策 | <input type="checkbox"/> | ②有機・減農薬・減肥料 | <input type="checkbox"/> | ③スマート農業 | <input type="checkbox"/> | ④畑地化・輸出等 | <input type="checkbox"/> | ⑤果樹等 |
| <input type="checkbox"/> | ⑥燃料・資源作物等 | <input type="checkbox"/> | ⑦保全・管理等 | <input type="checkbox"/> | ⑧農業用施設 | <input type="checkbox"/> | ⑨耕畜連携等 | <input type="checkbox"/> | ⑩その他 |

【選択した上記の取組方針】

| |
|--|
| |
|--|